

# 札幌くらぶ Sakkyo Club

2012. 4 58

【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付  
 メール: info@sakkyoclub.net  
 ホームページ: http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/



## 高関正指揮者3月末退任 ありがとうございます



2/11定演終了後、札幌くらぶより花束贈呈

札幌交響楽団の正指揮者、高関健さんが3月で任期満了となり札幌を去りました。正指揮者としての在任は9年間に及び、音楽監督の尾高さんとのコンビで札幌を日本を代表するオーケストラの一つに育てて下さったのは皆さんご存じのとおりです。

偶然ですが私が会社を退職し、札幌に永住することに決めたのも同じく9年前の2003年4月で、高関さんが着任されたのと同じ時期でした。直ぐに定期会員となりましたので、初めて聴いた札幌が高関さんの指揮された4月の定期「わが祖国」全曲でした。あまりにも強烈な印象でしたので、地方公演まで追いかけることもあり、私は高関さんのダイナミックで解り易い指揮が好きで、思い出せば数え切れませんが、敢えて挙げるなら2009年6月の第520回

定期演奏会のカルミナ・ブラーナ(オルフ)と最後となった2月の546回定期演奏会のトゥランガリラ交響曲(メシアン)です。2曲とも20世紀を代表する曲ですが、私は生の演奏を聴くのは初体験でした。現代曲としては2曲とも親しみやすい曲です。特に「カルミナ・ブラーナ」は旋律が美しいので覚え易く、高関さんが残された札幌との唯一のCDは今までにどれだけ聴いたか判りません。車で遠出する際の必需品となっています。また、「トゥランガリラ交響曲」は札幌、高関さんとも初挑戦の曲で、任期最後の定期で取り上げるとは如何にも高関さんらしいと思えました。事前にCDやテレビのN響定期公演(同じ独奏者)で予習(?)はしていたのですが生の演奏の迫力は桁違いで圧倒されました。ストラビンスキーの

「春の祭典」と並び称される20世紀最大の傑作を高関、札幌のコンビで聴けたことは生涯忘れません。この曲はこれから100年、200年経っても残る曲だと思います。本当に幸せでした。

私たちに音楽の喜びを与えて下さった高関さんは勿論、札幌との縁が切れた訳ではありません。5月の定期演奏会「ミサ・ソレムニ

ス」で早速お目にかかれそうです。名曲シリーズでもお会いできます。私は今から楽しみにしています。そして何時の日か札幌に戻ってこれられることと信じて遙かな夢を抱いています。何ほどもあれ、9年間本当にお疲れさまでした。これからの一層のご活躍を心からお祈りしています。(運営スタッフ 佐藤高明)

## 札幌くらぶ創立15周年記念事業 「札幌くらぶシンボルマーク」決定

札幌くらぶ創立15周年記念事業として「札幌くらぶシンボルマーク」の制定を平成23年総会で決定し、そのデザインを一般公募し、応募されたデザインの中から青森県弘前市の工藤和久さんのデザイン(事務局長 武藤義典)を運営会議で決定しました。審査は、札幌の「S」、くらぶの「C」、音符、五線譜がデザインに取り入れられているか、デザインがシンプルか、など基準に行いました。(事務局長 武藤義典)



基調パターン(濃色) 淡色パターン モノクロパターン

## 平成24年札幌くらぶ総会開催のお知らせ

平成24年札幌くらぶ総会及び交流会を次のとおり開催いたしますので、お知らせいたします。今回も総会に出席される会員の中から第549回定期演奏会B日程S席チケットを、10

一枚をプレゼントいたします。希望される会員の方は、5月10日午前10時から先着順で電話(011-563-6490)で受付いたします。チケットは、当日、総会受付にてお渡しいたします。日時 5月26日(土)

1. 総会
  - 場所 札幌コンサートホール 2階大会議室
  - 時間 12:00~14:00まで
2. 第549回定期演奏会
  - 場所 Kitara大ホール
  - 時間 15:00~17:00まで
3. 交流会
  - 場所 札幌北ホテル (南14条西1丁目)
  - 時間 17:30~19:30まで
  - 会費 1人3,000円

シンボルマークの説明  
 札幌の「S」とくらぶの「C」を組み合わせてデザインし、「音」と「五線譜」で「札幌くらぶ」を象徴的に表現しています。カラーパターンと使用方法  
 カラーパターンは、札幌くらぶのシンボリックカラー「濃緑」と札幌のシンボリックカラー「濃青」の2色の組み合わせを基調とし、淡色の「緑」と「青」のボタン、モノクロの「白」と「グレー」の組み合わせパターンの3つのパターンを用途に合わせて使い分けることとしました。

# 5月〜6月の定期・名曲シリーズ 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三二(札幌くらぶ会員)

## 森の響フレンドコンサート

### 札幌名曲シリーズVol.1

前橋 汀子演奏活動50周年記念

5月12日(土) 15:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/梅田 敏明

ヴァイオリン/前橋 汀子



梅田敏明 (撮影:三浦興一)



前橋汀子(©篠山記信)

### ♪音楽が紡ぐ物語

#### 「シェイクスピアの喜劇・悲劇」

#### ■ニコライ/歌劇「ワインザーの陽気な女房達」序曲

シェークスピアは、戯曲の中でさまざまなキャラクターを生み出しているが、その中でも人間的な魅力に溢れた人物がファルスタフだ。彼は好色家でしかも自己中心的だが、どこか憎めない人間く

ささがある。おじさん達の象徴と言ったら怒られるだろうか。ファルスタフを題名にした歌劇は、ヴェルディの作品が有名だが、その40年以上前にドイツの作曲家ニコライが、シェークスピアの原題どおり「ワインザーの陽気な女房達」でオペラ化している。2時間半に及ぶオペラだが、序曲は独立して演奏されることが多い。ドイツのジングシュピールの色彩とイタリアのオペラ・ブッフアの要素が巧みに混合され、詩情溢れる部分とユーモラスな部分が交差する。

#### ■チャイコフスキー/幻想序曲「ロメオとジュリエット」

チャイコフスキーは、アントニーナと不幸な結婚生活に入る前にフランス歌劇団の美しきプリマドンナ、デジレー・アルトと恋に陥った。しかし、彼女は仲間のバリトン歌手と結婚してしまう。バラギエフは、シェークスピアのこの名作を作曲するようにチャイコフスキーにすすめた時、彼の恋の痛みが作曲することをためらわせたと言う。結局、初演は不評でその後改作につぐ改作で10年後に決定稿ができあがった。曲はドラマ

マティックな曲想を持つが、原作の悲劇的なロマンスを物語風というよりは、劇的・性格的に表現し「標題的な内容を持つ音詩風の演奏会用序曲」という意味で「幻想序曲」という題名がつけられている。

#### ■メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲ホ短調

メンデルスゾーンは、二短調とホ短調のふたつのヴァイオリン協奏曲を残したが、後者がお馴染みの名曲である。メンデルスゾーンが28歳の時に着想し、その後6年の歳月をかけて完成させた。前作の二短調作品と同じく当時の名ヴァイオリニスト、エルディナント・ゲヴィットの助言を受けながらつくられ、

彼にこの曲は献呈されている。ロマンティズム溢れる甘美な名旋律ではじまり、均整のとれた形式美でつくられた3つの楽章は、中断することなく演奏され、心地よい流動感を聴くものに与えてくれる。

#### ■「真夏の夜の夢」より序曲、スケルツォ、夜想曲、結婚行進曲

文豪シェークスピアが書いた全5幕の喜劇「真夏の夜の夢」をドイツ語訳の戯曲にしたものをメンデルスゾーンは読み、大きな興味を抱いた。彼は、その作品にピアノ連弾用の序曲を作曲し後に管弦楽用

に編曲した。そして、序曲と劇音楽として「真夏の夜の夢」は、メンデルスゾーンの代表作となる。劇音楽は12曲からなっているがその中から有名な3曲が演奏される。スケルツォは小気味よいフレーズが心を浮き立たせる。夜想曲はホルンの叙情的な響きが楽しめ、結婚行進曲は、あの名旋律で式場に入場された方々も多いのではないかと

### 第549回札幌定期演奏会

5月25日(金) A日程 19:00  
5月26日(土) B日程 15:00

札幌コンサートホール大ホール  
指揮/高関 健

ソプラノ/佐々木典子  
メゾソプラノ/永井 和子  
テノール/望月 哲哉  
バリトン/福島 明也



永井和子(札幌提供)



佐々木典子(札幌提供)



高関 健(©佐藤雅英)



福島明也(札幌提供)



望月哲哉(札幌提供)

#### 札幌合唱団・札幌アカデミー合唱団・札幌放送合唱団

ベートーヴェン/ミサ・ソレムニス

ベートーヴェンが難聴の悪化や甥カールの養育権の問題から精神的体力的に不安定になり経済面でも貧窮していた頃にも強力で彼を支援していたのがルドルフ大公である。「殿下の式典に際し、私の作曲する『ミサソレムニス』が演奏を許されるとすれば、その日こそ私の生涯でこの上なき幸福な日となるでしょう」と手紙に記したとおりベートーヴェンは、大公の即位式のためにミサ曲を書く決心をする。しかし、作曲が進むにつれ作品の規模がどんどん膨らみ、多くの時間を費やしたため、結局完成は大公の即位式までには間にあわず、

式典から3年後であった。彼は、「私のこれまでのようなテキストの扱い方をここでは一切用いておりません」と出版社に述べ、さらに書簡の中で「この作品は私の最

大の作品である」とも記している。曲の冒頭には「心より出て、再び心に入らんことを」という語が添えられている。このことは、「奏者も聴き手も敬虔な気持ちで喚起し、より一層神に近づき、神の栄光を人類に広めることほど尊いことはない」というベートーヴェンの強い意志が込められているからなのだ。

### 森の響フレンドコンサート

#### 札幌名曲シリーズVol.2

6月9日(土) 15:00

札幌コンサートホール大ホール  
指揮/尾高 忠明  
ピアノ/北村 朋幹



尾高忠明 ©Martin Richardson



北村朋幹 ©miniIMG\_0211J

### ♪音楽が紡ぐ物語「鳥のおとぎ話」

#### ■デイリアス生誕150周年記念

#### ■「デイリアス」小管弦楽のための2つの小品

デイリアスは、イギリス出身の作曲家だが、若くしてアメリカに渡り音楽を学び、さらにライプツィヒ音楽院で学んだ後、27歳以降フランスで生活した。彼の代表作には、

今年3月の札幌名曲シリーズで演奏された「楽園の道」がある。今回演奏される曲は、第1曲「春、初めてのカッウの声を聞いて」と第2曲「河の上の夏の夜」の2曲からなり、特に第1曲は、クラリネットやオーボエなどの木管楽器が鳥の鳴き声を表現し、春の澄んだ青空が広がるさわやかさを感じさせる作品だ。

■モーツァルト／ピアノ協奏曲第23番イ長調

モーツァルトが、ウィーンに移り住んで間もない1782年から開催された予約音楽会は、彼のクラヴィア演奏を伴ってウィーンの聴衆に熱烈に歓迎された。特に1784年、86年の間には12曲のピアノ協奏曲が書かれ、それらは古典派ピアノ協奏曲の最高傑作ばかりである。「イ長調」協奏曲もモーツァルト後期のピアノ協奏曲としては、非常に有名で札幌でも4年前の定期演奏会でデヤン・ラツィックのピアノ独奏が名演を聴かせた。モーツァルトは、多くのピアノ協奏曲で、ピアノパートをスケッチ程度にとどめ、演奏時に完成した形にしたようだが、この曲ははじめから入念に書き込まれ、カデンツァも完全なものとなっている。さらに当時最新鋭の楽器だったクラリネットをはじめ木管楽器がおおいに活躍することも特徴的だ。

■ラヴェル／「マ・メール・ロフ」組曲

絵本を子どもにも読み聞かせるように、ラヴェルはおとぎ話を音楽で読み聞かせたのがこの曲だ。本来は子どものためのピアノ連弾曲で、おとぎ話に基づく5つの小品を集めたもの。後に作曲家自身が「前奏曲」、「間奏曲」等を付け加えてバレエ曲として管弦楽化した。題名はフランス語で「マザ・グース」を意味している。ラヴェルの豊かなオーケストレーションの響きは、幻想的でまるでデイズニー映画の音楽のようだ。そう言えば、この曲には「眠りの森の美女」や「美女と野獣」も登場する。

■ストラヴィンスキー／「火の鳥」組曲（1919年版）

ストラヴィンスキー三大バレエ音楽の最初の曲である「火の鳥」は、ロシア・バレエ団のディアギレフの委嘱で書かれた。まだ新人だったストラヴィンスキーは、バレエ界の大御所からの依頼にかなり奮闘し、振付家のフォーキンとも緊密に連絡を取り合いながら作曲に励んだ。今回演奏されるのは、演奏会用の組曲としてつくられた第2版で、2管編成ながら豊かな色彩感を持って神秘的に描写されている。哀愁をおびた「王女たちのロンド」の旋律は実に耽美で、「カスチエイ

の魔の踊り」は作曲家初期の原始主義的雰囲気を見せている。

<p>6月22日（金）A日程 19:00 6月23日（土）B日程 15:00 札幌コンサートホール大ホール 指揮／アンドレアス・デルフス ピアノ／セドリック・ティベルギアン</p>	 <p>セドリック・ティベルギアン © Benjamin Ealovega</p>	 <p>アンドレアス・デルフス（札幌提供）</p>
--	---	--

■ラヴェル／ピアノ協奏曲ト長調  
ラヴェルは、ピアノのための協奏曲を2曲だけ、晩年にほぼ同時進行で書いた。この曲は、「モーツァルトとサン＝サーンスの協奏曲の精神で書いた」と作曲家自身が言っている。伝統的な3楽章形式でつくられている。しかし、ロマン主義や民俗主義が内包されていると同時にジャズの影響も感じられる。ラヴェルは1928年にアメリカ演奏旅行をし、指揮者として、また作曲家として高い評価を受けた。この経験が作品に影響しているのは確かであろう。「ラプソディーインブルー」を書いたガーシュインが、ラヴェルに会い作曲のアドバイスを求めたとき、ラヴェルは「私からあなたに助言できることは何も無い」と答えたと言っている。この曲を聴くとラヴェルがガーシュインから影響を受けたのではないかと思ってしまうぐらいだ。

■ドビュッシー／「イペリア」  
管弦楽のための「映像」より  
「映像」と題する3つの作品集を残したドビュッシーは、その第3集を管弦楽のために書いた。この第3集は「ジーク」「イペリア」「春のロンド」の3曲からなり、今回演奏される「イペリア」は「街々より道へ」「夜の匂い」「祭りの日の朝」の3楽章から成っている。この曲は、イペリア半島のスペインの情緒が作品の発想となっているが、具体的な描写性

はなく音楽から醸し出される雰囲気から作曲家が心眼に映じた印象的なものだ。はじめにスペインのセヴィリヤーナ風の舞曲のリズムが華やかに聞こえ、「夜の匂い」では、作曲家らしい全音階的な響きが幽玄で幻想的な世界をつくりあげる。終楽章は、夜のとばりがほのかに明け、躍動的なリズムが人々の賑わいを徐々に感じさせる。祭りの日の活気に溢れた一日のはじまりだ。

■ラヴェル／ボレロ  
たった2つの旋律が、それぞれ9回ほど繰り返されるだけの曲、それが「ボレロ」だ。そんな単純な形式なのにラヴェルの代表作として、

音楽の教科書にも載る名曲となった。しかし、この作品には緻密で斬新な工夫が隠されている。まず、同じ旋律を少しずつ強く演奏することとは、人を陶酔させる効果がある。また「音の魔術師」と言われたラヴェルのオーケストレーションには驚かされるばかり。例えば、ホルンとピッコロを重ねたり、オーケストラではあまり使用されないサクソフォーンを効果的に使ったりと管弦楽法の実験場となっている。7年前に札幌で公演されたチェコ国立ブルノ歌劇場の「カルメン」で同曲が斬新なバレエと組み合わせられ、強烈な印象を与えていた。

札幌2019年10月2ndコンサート

(2/15 札幌サンプラザ)

久し振りにトロンボーン演奏会を聴いた。予想されたことだが聴衆の大半は学生と吹奏楽関係者のように思えた。  
プログラムに曲目の解説が全くないという斬新なアイデアに驚く。田中さんが全曲とも解説されたが、説明が長く単調なので流石に飽きます。他の3人にも交代で1曲は担当させるか、あるいは思い切ったプロに任せれば良かったのでは？また、後半に楽器を変えた時こそ説明をすべきでした。それと仲間を紹介するのに敬称は不要です。却って不自然に思えます。

良い音でトロンボーン独特の綺麗なハーモニイが響くと思わずドキッとする瞬間があるので、そのような演奏を待っている。若い2人の加入で伸びしろは充分あるメンバーだ。次回に期待します。(紗)

# 札幌物語 57

## 札幌の50年を振り返る(2)

竹津 宜男 (札幌くらぶ会員)



創立楽団員の演奏能力は50年を経た今日の楽団員と比べようはない。正団員19人の構成は群馬交響楽団から来た人、北海道で既に演奏活躍をしていた人、自衛隊音楽隊からの人、音楽学校を卒業したばかりの人、東京でフリーランスをしていたなど様々なキャリアを持った人間の集まりで、26歳の私が3番目の年長者と言う若い集団だった。

1961年7月1日の顔合わせから9月6日の第1回定期演奏会までは忍耐を要求されるひたすら練習に励む2ヶ月間だった。

1週間のスケジュールは月、水、金曜日が副指揮者遠藤雅古(まさひこ)による午前9時から午後5時までの正団員だけの練習、火、木、土曜日は初代常任指揮者荒谷正雄による午後6時から午後9時まで全員での合奏練習だった。

インスペクターは事務局次長太田泉、楽団員からは私が初代の副インスペクターとして現場を任せられた。オーケストラ経験の無い若い楽団員はオーケストラとしては極

めて常識的なこと、音出し時間を守ること、音合せの時には出来るだけ雑音を出さないで音合せに集中すること、指揮者が注意をしている時には耳を傾けることなどが身に付いていなくてまるで子供に注意するような日々が続いた。

日が経つにしたがって若い正団員たちにはストレスがたまり「我々正団員は毎日練習しているのに準団員は3日間の練習だけで我々と同じステージに立つのは許せない」と不満の種が芽生え始めた。同じ正団員の私が若い団員の激しい不満の声を抑える立場になり日々激しくやりあう形になってしまった。

遂には「一緒に演奏したくない」と険悪な雰囲気になっていき、練習終了後に2番目に年長のフルートの佐々木伸浩(後に親睦会として作った「楽員会」の会長に就任した)が若い団員の憤懣を収めるため飲みみに連れ出し慰撫してくれた。翌日の練習場はささか酒臭かった。

収まらない楽団員達は遂に副指揮者遠藤雅彦を擁して準団員制度に反対運動を始めた。そんな爆弾を抱えながらなんとか創立記念演奏

会までたどりついた。演奏会に出演するようになると当面の不満は発散することが出来たようだった。

しかし、不満は消えたわけではなかった。若い正団員は副指揮者遠藤雅彦を常任指揮者に担ぎ上げようと動き始めた。遠藤と問題の団員達は翌年には札幌を去る結果になった。準団員制度のお蔭で今日の札幌はある。

62年に群馬県高崎市で行われた群馬交響楽団、京都市交響楽団、札幌交響楽団による「芸術祭三市交響楽団特別演奏会」が催された。この演奏会は日本の音楽界で話題になり東京から音楽評論家が大勢聴きに来た。札幌のことは異口同音に新聞・音楽雑誌上で「透明な弦楽器の響き」と書かれた。当時はコンサートマスター、佐々木一樹を始めヴァイオリンからヴィオラまでの弦楽器奏者の多くは荒谷正雄が留学から帰国して間もなく札幌に創設した札幌音楽院の門下生だった。

荒谷正雄は35年からヴァイオリンでドイツへ留学し、日本人としては初めてヴァイオリンの名手ヨージェフ・シゲティに師事した。

45年に帰国後は在京のオーケストラからコンサートマスターへの誘いを断って夫人を伴って郷里の札幌へ定住した。札幌音楽院からは第21回日本音楽コンクール第2位のヴァイオリンの家郷桜子やN響の首席コントラバス奏者を長年務めた中博昭など優れた演奏家を輩出している。

札幌は70年に読売新聞社主催の東京で行われた「ベートーベン生誕200年記念ベートーベン・チクルス」に出演した時の新聞評にも「弦楽器の札幌」と書かれた。客演する外人指揮者にも弦楽器の音が際立って美しいと言われていたが、68年には既に管楽器奏者全員がプロ化していた。

岩城宏之音楽監督時代には「日本一の管楽器セクション」と言われ管楽器のソコが目立つプログラムを選ぶことが多くなっていたのだが、84年10月11日に初めて東京の昭和女子大学人見記念講堂で行った自主公演への新聞の比評(同時に在京の5紙に掲載)にも「北からの爽やかな弦の響き」とか「透明な美しい弦の響き」とか書いてあった。「弦楽器の札幌」といわれることから卒業するのには時間が掛かった。

「日本一の管楽器セクション」と言われ管楽器のソコが目立つプログラムを選ぶことが多くなっていたのだが、84年10月11日に初めて東京の昭和女子大学人見記念講堂で行った自主公演への新聞の比評(同時に在京の5紙に掲載)にも「北からの爽やかな弦の響き」とか「透明な美しい弦の響き」とか書いてあった。「弦楽器の札幌」といわれることから卒業するのには時間が掛かった。

# バロックの楽しみ Vol.2

2012年3月4日(日) 日本福音ルーテル札幌教会にて



右から土井さん、物部さん、明楽さん、宇田さん (明楽さん提供)

バロック音楽、私は聴くのが初めてで、バロック絵画やバロック建築を思い浮かべ、大胆で過激な音楽を想像していました。しかし、バロックヴァイオリンの弦の響きがやさしく、語りかけるようで心地よく、とても癒される音楽であると知りました。

コンサートは、物部憲一さん(札幌ヴァイオリン奏者)からバロックヴァイオリンと今のヴァイオリンの違いの説明があり、特に弦が羊の腸で作られたものを使用していること、温度に敏感なため曲間ごとにチューニングする必要があるとのことでした。

演奏された曲は、  
D. ガロ/トリオンナタ第1番  
C.F. ヘンデル/  
トリオンナタ HWV390  
ヴァイオリンソナタ HWV359a

H.I.F. ピーパー「技巧的で楽しい合奏より」バルティア V  
D. ベッカー/トリオンナタ第1番 トリオンナタ第6番  
A. ヴィヴァルディ/トリオンナタ「ラ・フォリア」テーマと19の変奏曲  
の7曲とアンコール2曲、休憩を挟んでたっぷりの2時間で、バロックの特徴である曲のバリエーションの緩急を楽しみました。  
出演者は、バロックヴァイオリンが物部憲一さん、土井 奏さん(札幌ヴァイオリン奏者)、バロックチェロが宇多 梓さん(男性です)、チェンバロが明楽みゆきさんの4人。  
私は、20分くらい前に礼拝堂に入りましたが、まだ人もまばらで前から3列目のほぼ中央に席を取り、始まるころには席もすっきり埋まり、2階席で聴く人もいました。まわりを見渡すと若い方たちが多いのが他のコンサートとちよつと違う雰囲気でした。コンサートの様子を書くためメモを取りながら聴いていたので周りの人は奇異に思ったかもしれませんが。ごめんなさい。しかし、いざ書くとなると、メモはあまり役に立ちませんでした。 (武藤)

# 「札幌ニューイヤークンサート in 小樽」を聴いて

(2012年1月28日、於小樽市民会館)

2012(平成24)年1月28日、今年も札幌ニューイヤークンサートが小樽市民会館で開催されました。札幌と北海道新聞小樽支社の主催で行われるこのコンサートは今年で連続7回となり、小樽市民にとっては毎年の恒例行事としてすっかり定着した感があります。1200人収容できる小樽市民会館は、今年も楽しみにやってきた聴衆者で満席となり、演奏前からとても活気に満ち溢れていました。小樽市民会館は1963年に開館となった建物で、かなり老朽化が進んできており、音響面などはとてもキタホールには及びもつきません



札幌交響楽団(上)とジャズピアニスト野瀬栄進さん(下) (提供: 新小樽提供)

部分では、小樽の祭典「潮まつり」のテーマングである「潮音頭」が織り込まれるなど、地元小樽ならではのサプライズもあり、形に捉われない、躍動感としつとり感のある野瀬ワールドにすっかり酔った後の休憩時間では、ワインを片手に余韻を楽しませてもらいました。

第2部では、高関さんの面白可笑しい解説と共に、シユトラウス親子の名曲を楽しみました。「クラブ

フジの森」では、楽団員の方が客席やステージの所々からカッコウと水笛を演奏されるといったパフォーマンスのおまけつきでした。また、初めて聴いた「芸術家のカドリーユ」には大変びっくりしました。いきなりメンデルスゾーンの結婚行進曲から始まり、ベートーヴェンやモーツァルトといった他の作曲家の作品が、何の脈力もなく次から次と出てくるので、「これ本当にクラ

シック」といった驚きとともに一寸不思議な感覚にもとらわれました。最後のアンコール曲は、もちろんお決まりのラデツキー行進曲。会場一体となって盛り上がった中で、今年のニューイヤークンサートも大盛況のうちに終わりました。札幌のみなさん、ありがとうございます！ (小樽市 佐藤慶一)

## 粉雪がキラキラ光る幻想的な黄昏の街

「こころ温まる時をワインとともに」の言葉に誘われて「ハートフル♥コンサート」を聴きにカムオンホールへ

前川さんじきじきのお誘いにいそいそと会場へ、早く行ってよかったです。見回したら満員になっていた。メンバーは、

レ、トウリーナ) TVから流れてくる「坂の上の雲」のテーマ曲をきちんと全部聴きたいと思ってこのコンサートに来たのが第二の目的、こんなに美しい曲とは知らなかった、しつとりと豊かな声が心に染み入る。

- トランペット／前川和弘
- メゾ・ソプラノ／荊木成子
- ピアノ／柴田千賀子
- フルート／瀧谷まゆみ
- プログラム

- 1. テ・デウム／シヤルバンティエ
- 2. 前川和弘さんのトランペット
- 3. 荊木さんの声と前川さんのトランペットはもつと大きいホールで聴きたいと思った。
- 4. ムゼッタのワルツ／プッチーニ
- 5. メンデス編：前川さんのトランペット
- 6. ムンリバー／マンシーニ



右から前川さん、瀧谷さん、柴田さん、荊木さん (前川さん提供)

ど一杯だけにしておこう、後半に居眠りをしては見つともないからね。

最後に全員で「見上げてごらん夜の星を」を歌って和やかに終わる。収益金が震災遺児への義援金になるのとても嬉しい。

- 7. サマータイム／ガーシユイン
- 8. 「黒い瞳」／ロシア民謡
- 9. ソプラノ
- 10. 「歌」／ガーシユイン
- 11. 「[I] build a stairway to paradise」
- 12. 「[I] got rhythm」

お話を面白かったのに、内容は忘れてしまった(ごめんなさい)。二ノロータ：トランペット

- 13. 寂寥感が漂うトランペットの音色、ふと思う「海辺の夕陽を背景に前川さんのシルエットを絵に描けたらいいなあ」。
- 14. 軽やかな曲なのでそれぞれに想い出が纏わる夕べだった。
- 15. 言葉ばかりでさっぱり進まない復興と成すすべもなく気を揉んでいるだけの自分にいらだちを感じながら、一年が経とうとしている時に楽しいひと時を過ごしてほしいのささやかでも協力できた今宵に感謝します。2012・2・25(鰯)

会場全体がふわりと軽くなる。チーズにグリッシーもあっていておいしいもう一杯飲みたいけれど

- 1. テ・デウム／シヤルバンティエ
- 2. 前川和弘さんのトランペット
- 3. 荊木さんの声と前川さんのトランペットはもつと大きいホールで聴きたいと思った。
- 4. ムゼッタのワルツ／プッチーニ
- 5. メンデス編：前川さんのトランペット
- 6. ムンリバー／マンシーニ
- 7. サマータイム／ガーシユイン
- 8. 「黒い瞳」／ロシア民謡
- 9. ソプラノ
- 10. 「歌」／ガーシユイン
- 11. 「[I] build a stairway to paradise」
- 12. 「[I] got rhythm」

休息。前川さんが楽譜を忘れて出てくるほど気にかけていたワインのとき。

- 13. 寂寥感が漂うトランペットの音色、ふと思う「海辺の夕陽を背景に前川さんのシルエットを絵に描けたらいいなあ」。
- 14. 軽やかな曲なのでそれぞれに想い出が纏わる夕べだった。
- 15. 言葉ばかりでさっぱり進まない復興と成すすべもなく気を揉んでいるだけの自分にいらだちを感じながら、一年が経とうとしている時に楽しいひと時を過ごしてほしいのささやかでも協力できた今宵に感謝します。2012・2・25(鰯)

お決まりのラデツキー行進曲。会場一体となって盛り上がった中で、今年のニューイヤークンサートも大盛況のうちに終わりました。札幌のみなさん、ありがとうございます！ (小樽市 佐藤慶一)

### 弦楽三重奏団「レイラ」のコンサートを聴いて

札幌くらぶのスタッフとして、やつと1年が過ぎました。クラシック音楽に疎い私でしたが、活動を通じ音楽に触れる機会が多くなり、少しずつ音楽を理解し楽しめるようになりました。

10数年前、あるヴァイオリンコンサートに行きヴァイオリンが大好きになり、何度かコンサートに足を運びました。

今回は教会の会堂でのコンサートです。礼拝堂や会堂は天井が高いので音がよく響き、心地よく演奏ができるという話を聞いたことがあります。まさにそのとおりで、バプテスト教会の会堂は音が心地よく響き、最近少々落ち込んでいた私の心にひたひたと沁みしました。私はコンサートに色々な空想の世界を創って聴くのが楽しみなのです。ベートーヴェン／弦楽三重奏曲二長調作品8「セレナーデ」

私にとって、この曲の世界はフランスのブドウ栽培にたずさわっている人達の四季を連想します。冬のブドウ畑では、静かな中でじつと春が来るのを待ちます。春には、ブドウの木々達は楽しそうに芽を出します。夏には旨味をますます為に暑さに耐えます。秋になり楽しい収穫祭をして、冬になり作りたてのワインとチーズで穏やかに日々。素敵な景色が描けました。J・アーモン／ホルン四重奏曲作品20より第1番へ長調、第2番へ長調

ホルンと弦楽器のコーポレーションを聴くのは初めての経験なので、楽しみにしておりました。橋本敦さんのホルンは羊たちの鈴の音などのアルプスを思い描かせてくれました。弦楽器はどこまでも続く緑の山並みの雄大な世界を連想し澄み切った心になり、好きな管楽器がふえてきました。オーボエもフルートもトラン

ペットも好きですが、その上ホルンも好きになりました。ブラームス／弦楽四重奏曲第2番イ短調作品51の2

休憩後、あれ？先程まで横にいた可愛いお嬢さんがヴァイオリンを持って舞台の上！。演奏が始まると廣狩亮さんのやさしい繊細なヴィオラと廣狩理栄さんの力強いチェロ、さすがご夫妻、呼吸はピッタリ、更に岡部重希子さんと鎌田泉さん、お二人のダイナミックさ繊細さ、男らしくて女っぽいつややかな演奏。衝撃的さわやかなノックダウンです。

### 「ニューキタラホールカルテット」を聴いて

ワカルとかワカラナイとかいうのはおかしいと思うけど、クラシックの事は私ワカラナイ。そんな私が札幌の名曲シリーズでクラシックに入門し、知らない曲が多いので敬遠していた定期も聴いてみようかと会員になり、せつせといろんなコンサートに足を運ぶようになった。

「素敵だったねえ。」「ほんと、よかつたねえ。」とコンサートの余韻に浸りながら家路をたどるのが好きだ。

そのうち、「コンサートマスター

心は満たされ雪降る中を足取り軽く家路をたどりました。(あや)

「ニューキタラホールカルテット」を聴いて

のアンサンブルとかあったらいいのにね。」「ほんとねえ。ぜひだよねえ。」なんて言っていたら本当になつてしまった。すごい！

というわけで、ニューキタラホールカルテットは第1回から聴いてきたのに、三上さんの卒業の日を迎えてしまった。もともと長く続いて東京なんかから乗って来たら、絶対東京まで追っかけてしよう！なんて勝手な夢を見ていたのに…。

シヨスタコーヴィチは美しかった。どちらかと言うと旋律が浮かび上がってこないシヨスタコーヴィ

子はいまいち良さがワカラナイ。でもこの日のシヨスタコーヴィチはほの暗いメロディがくつきりとして美しく素敵だった。ヴァイオリンが歌い、ヴィオラが応える、チェロが語りかける…。こんなやりとりを感じることができるとは生だからこそ…。音楽はCDではなくやはり目と耳で聴くに限る。弦ってなんとなく「むせび泣くような」歌いかたが多いけど(偏見!?)この4人は違う。深い呼吸のような、静かな熱が込められた力強い歌だ。

物悲しい2楽章の歌から最後の楽章へと次第に高まり、情感のこもった歌がひそやかにまた激しく歌われていく。ワカラナイけれど美しい音楽をまつすぐ自分の胸で受け止めることは私でもできる。もつとペンキョウしたらもつと深くワカルのだろうな。TVのN

響アワの西村先生や名曲探偵の野本先生のお話とても面白くて、なるほど！いつも感心してしまふ。コンサートの前には西村先生がいつもそばにいてくださればいいのに…そのN響アワも終わってしまったのだそうで、三上さんの退団とともにさみしい。

コンサートの最後に伊藤さんから三上さんへ花束が渡されたとき、石川さんとてもさみしそうだった。三上さん、ありがとうございます。ぜひまた札幌でもリサイタルをしてください。

ニューキタラホールカルテットはどうなるのだろうと思っていたら、大森さんになった。楽しみだ。大森さんのきつぱりしたさすががしい音が好きだ。今度はどんな歌が交わされるのだろう。次のシーズンを楽しみにしたい。(茶)

「創立20周年記念祝奏コンサート」

北海道立近代美術館で行われたロビーコンサートに行った。これは、美術館で開催した道銀の創立60周年の記念事業「北海道銀行コレクション」の関連事業として行われたものである。

道銀は、創業初期から北海道の芸術分野に様々な支援をし、創立40周年の平成3年には、「道銀文

化財団」を設立、「道銀芸術文化奨励賞」を若手の音楽家たちに贈り、今年で20周年を迎えている。その時の受賞者たちが、今回のロビーコンサートの出演者なのである。

「創立20周年記念祝奏コンサート」と題して、2月の土・日、午前午後合わせて16回もコンサートが行われた。私はもちろん、札幌のメ

12日は椅子席はもちろん、立ち席も階段も一杯。19日も3人がけの椅子に4人も座るほどの混雑だった。

こんな素晴らしい演奏を美術館という芸術の香りあふれる会場で楽しめる幸せを感じた(しかもタダで)。コンサート会場でチケットを買って聴くべき演奏をこんな風に気軽に聴けるとは、なんて贅沢なんだろうと思いつながらの至福のひとつときだった。(み)

12日、右から文屋さん、新堀さん、石原さん。19日、右から石田さん、石川さん。(道銀財団提供)



12日、右から文屋さん、新堀さん、石原さん。19日、右から石田さん、石川さん。(道銀財団提供)

# ヴオカリーズ

## 石川祐支チェロリサイタル 2/15(水) 真駒内六花亭ホール

札幌のニューイヤーパーティでチェロの石川さんにお会いしました。ぜひリサイタルをしてください！とお願ひしたら「あ、やりますよ、来月。パッハの無伴奏とあとヴォカリーズとか。」とのこと。それは聴きに行かなくては！

私がヴォカリーズを初めて聴いたのはTVの音楽紀行番組でした。それはロシアの美しい雪景色に似合っていてお気に入りの曲の一つになりました。

コンサートに通うようになってからはオーケストラ版をアンコールで聴いたり、ヴァイオリンコンサートで聴いたりしましたが、チェロ版は今夜が初めてです。歌詞のない歌を石川チェロはどんなふうに歌うのでしょうか。

六花亭ホールも今夜が初めてです。風の冷たい夜でしたが、そこだけほつりと暖かく柔らかな光に包まれています。ここがお菓子のお店とは思えません。札幌以外にお住まいの方をご案内したら、疑いもなく音楽専用ホールだと思いに違ひありません。

リサイタルはショパンからスタート。ピアノの谷口聡子さんの息をのむ音のやりとりにあつという間にひきこまれています。

いよいよヴォカリーズです。ピアノの和音が静かに重ねられ、チェロの最初の音がすべり出るとホールはしっとりとした音で満たされていきます。



右から谷口さん、石川さん (六花亭提供)

オーケストラやヴァイオリンとはまた違う、穏やかで切ない旋律が優しく歌われていくにつれてなぜか心がざわめくような…。そして、チェロは深い深い呼吸をして消えて行きました。

残響が長いこのホールでは独奏が美しく響きます。パッハの無伴奏チェロ組曲第3番、チェロの響きで満たされ、まるでホールが楽器そのものになっていくかのようです。

一つひとつの音が大切に紡ぎだされ、高音域から低音域へまたその逆へと、指が、弓が、音が躍動し、目も耳もひきつけられていきます。無伴奏は練習曲みたいでちよつと…と思つていたのは無知な思いこみでした。反省…。低く深い音がホールの底に広がったと思つと、高く柔らかな音がホール

の天井に昇っていきます。弓が高く振り上げられ、長い余韻を残してパッハが終わりまりました。

最後はメンデルスゾーンです。たがいに歌い、聴き、応える小気味よいピアノのやりとり。アレグロからアレグレットへと次第に高まっていくこの過程が好き。確かに音が熱くなつていくのです。

最後の音が放たれると満員の客席から盛大な拍手が贈られました。それにしても、街のあちこちにこんな音楽の発信基地がある札幌はなんて素敵な街でしょう…。

休憩時にはおしゃれでおいしいいちごミルクと温かい紅茶をいただき、そしてすきな音楽をたつぷり…。すっかり満ち足りてあたたかいホールを後にしました。(静)

## 第547回札幌定期演奏会練習見学会を開催

2012年3月1日(月) 午前12時から午後1時まで札幌コンサートホール大ホール2階CBブロックにおいて、今年度2回目となる札幌との合同練習見学会を開催しました。

本来は、ゲネプロ見学会の予定でしたが、定期演奏会では調整がつかず、3月の名曲シリーズを考えていましたが、札幌からの提案もあり合同での練習見学会とすることに

なりました。練習見学会には札幌くらぶからは67名、札幌からは76名、計143名が参加しました。練習終了後、指揮者の下野竜也さんがCBブロックの客席まで足を運んで、練習や曲の解説をしてくださいました。本番ではきつとこれまでのと違った感覚で演奏会を聴くことができたと思います。24年度は練習見学会、ゲネプロ

## 札幌&札幌くらぶ交流会<クリスマス>の集い

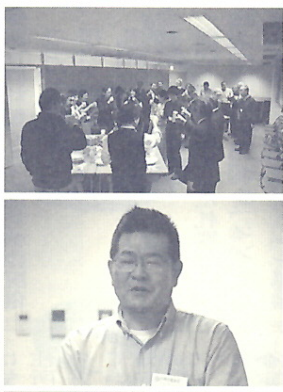
今年度最後となる交流会、前回の「札幌くらぶのXmasパーティー」を会場の都合で「札幌&札幌くらぶ交流会<クリスマス>の集い」という形式の札幌団員の演奏会紹介など交流を主体とする行事に変更して、2011年12月10日(土)第544回定期演奏会B日程終了後の午後5時30分から札幌コンサートホール2階大会議室で、札幌団員、会員約40名が参加して開催しました。

交流会は、深井事務局次長の司会で進められ、トロンボーン奏者の田中徹さんから札幌トロンボーン四重奏団第2回演奏会(2/15、ヴィオラ首席奏者の廣狩さん、チェロ奏者の廣狩さんご夫妻からトリオ・レイラコンサートVol.3(3/5)、ファゴット奏者の夏山朋子さんからカメラータ札幌第2回演奏会(4/9)の演奏会の紹介が行われ、チラシなどが配られました。その後、クリスマスの集いに移り上田会長のおいさつ、札幌小沢事務の乾杯で始まり、今回も会員から持ち寄られた数々の賞品をかけたビンゴゲームを開催、廣狩ご夫妻のお嬢さん「花恵ちゃん」がビンゴゲームとなって進行、間もなく「リーチ!」「ビンゴ!」と勢よく声を上げる人、リーチはするけどなかなかビンゴにならない人、それぞれ楽しい時間を過ごし、全員が賞品をゲットし、残った景品はじゃんけんゲームで分けられ閉会しました。(事務局長 武藤義典)

見学会それぞれ1回ずつ開催する予定です。(武藤)



CBブロックへ来て解説をする下野竜也指揮者 (札幌提供)



右上からクリスマスの集い開会、トロンボーン田中さん、廣狩さんご一家、左上からファゴット夏山さん、ビンゴガール廣狩花恵ちゃん

投稿

「アンサンブル・エルヴェ」第7回演奏会

(2/23ちえりあホール)

友人から譲って貰ったチケットでちえりあホールへ出掛けプログラムを見てビックリ！ 何と札幌の3人の団員（v n 佐藤郁子、vc 文屋治美、cb 斎藤正樹）がリードする弦楽合奏だったのです。文屋さんの書かれた丁寧な解説は読みやすく参考になりました。文才もある方ですね。

1曲目はバロックです。コンサートマスターの佐藤さんを中心に互いがアイコンタクトを取り、スキリシ

友人から譲って貰ったチケットでちえりあホールへ出掛けプログラムを見てビックリ！ 何と札幌の3人の団員（v n 佐藤郁子、vc 文屋治美、cb 斎藤正樹）がリードする弦楽合奏だったのです。文屋さんの書かれた丁寧な解説は読みやすく参考になりました。文才もある方ですね。

1曲目はバロックです。コンサートマスターの佐藤さんを中心に互いがアイコンタクトを取り、スキリシ

は有名な曲なので割愛します。札幌の団員がアマチュアの団体を指導しながら一緒に舞台上立つのは素晴らしいことだと思います。私たちも自然に応援したくなります。3人に感謝！ (鷹)



第7回演奏会(アンサンブル・エルヴェ提供)

スタッフの活動報告(平成24年1月～3月)

財団法人札幌市職員福利厚生会

1月11日(水)

担当/武藤事務局長、佐藤運営

スタッフ

札幌市職員福利厚生会事務局日下調整担当課長と中学生札幌定演招待について計画書を提出、予算100万円前後で調整することとする。

札幌市中学校吹奏楽研究協議会

(市立伏見中学校)

1月16日(月)

札幌市立伏見中学校職員室

担当/武藤事務局長、佐藤運営

スタッフ

市内中学校吹奏楽部員札幌定期招待事業について提案、了解を得る。事業開始は5月上旬総会まで保留する。

●上田会長に対する新規事業の説明

1月24日(火)

札幌市長室

担当/武藤事務局長

札幌市内中学校吹奏楽部員札幌定期演奏会招待事業、札幌くらぶアカデミー開設、総会日程、JOC総会日程について説明、了解を得る。

中島中学校合唱部

1月25日(水)

担当/佐藤運営スタッフ

中島中学校合唱部の4月、5月の札幌定期演奏会の招待について提案、了解を得る。

●会報「札幌くらぶ」第57号発行

1月25日(水)

担当/木村運営スタッフ、武藤事務局長

札幌くらぶコンサートなど17件の記事を8ページにわたって掲載、800部印刷、発行する。

会報「札幌くらぶ」第57号発送

作業&第12回札幌くらぶ運営会議開催

1月26日(木)

担当/武藤事務局長

札幌コンサートホール1階第2会議室

会報第57号を会員、ファンクラブ、指揮者、報道機関、札幌などに約650部発送、配布する。

運営会議において、24年度総会日時、24年度の新事業、JOC総会日時について会長との協議内容を報告し、協議、会報第58号の企画の協議を行う。

高関正指揮者に花束贈呈

2月11日(土)

札幌コンサートホール楽屋控室

担当/定政事務局次長、中居普

通会計担当

3月をもって退任する高関 健正指揮者に定期演奏会の指揮が最後となることから感謝の花束を第546回定期演奏会終了後贈る。

第13回札幌くらぶ運営会議開催

2月20日(木)

担当/武藤事務局長

札幌コンサートホール1階第2会議室

札幌くらぶ創立15周年記念事業「シンボルマーク」で応募された

凶案の中から候補を選定、練習見学会の受付方法、担当者を決定、JOCFC札幌総会の会場の決定、収支を協議、57号の投稿記事について報告をする。

第547回札幌定期演奏会練習見学会

3月1日(木)

担当/定政事務局次長、中居普

通会計担当、佐藤運営

スタッフ

札幌コンサートホール大ホール

札幌くらぶから67人参加、札幌と合せて150人程度が参加、練習終了後、指揮の下野竜也さんがCBプロダクまで足を運んでくれて、解説などをいただきました。

第14回札幌くらぶ運営会議開催

3月22日(木)

担当/武藤事務局長

札幌コンサートホール1階第2会議室

前回会議で選定した札幌くらぶ

創立15周年記念事業「シンボルマーク」のカラーパターンを協議

・決定、24年度札幌くらぶ総会の議案概要、会報第59号の記事担当の割り当て、中学生定演招待事業送迎バス会社の選定他を協議する。

札幌市立伏見中学校

3月27日(火)

札幌市立伏見中学校職員室

担当/佐藤運営スタッフ

市内中学校吹奏楽部員札幌定期招待事業について、伏見中学校の4月定期の参加を提案する。

株そよかせ観光

3月28日(水)

担当/佐藤運営スタッフ

札幌コンサートホール屋外駐車場

株そよかせ観光の畠山氏と配車係、運転手の屋外駐車場の視察に立ち会い、東西南北の2地域に分かれた場合の配車、料金について打ち合わせを行う。

編集後記

◆2月の定期で札幌デスクを担当した際、新規会員の申し込みを受けました。迂闊にもその時は気付きませんでした。福島県の方です。札幌へ一時避難されていらつしやるのでしょうか。本来私たちが何かお力にならなければいけないのに、有り難いことです。

定期や名曲のデスクに「入会

したいのですが」とお寄りくださる方が昨年度よりずっと多くなった。嬉しい。11月のくらぶコンサート作りはほんとに大変だったけれど、仲間の輪は活動する中でこそ広がっていくのだと実感した。(cha)

◆今回は、「札幌くらぶシンボ

ルマーク」の決定を報告するので、1ページ目だけをカラーとしました。同じく1ページに掲載した高関 健正指揮者の写真もカラーになりました。今号の記事を書いていただく皆さんに、かなり厳格に字数を割り当てましたが、初めてのことであり、割り当てられた字数内で書くことは難しかったようで、割り付けの際、修正を加えた記事もありました。(武)